

「音楽についてこう考える，こう言いたい」 学習者アンケートWeb調査の分析

— 子供にとって音楽は
「アイデンティティやコミュニケーション」のツール

新山王政和（愛知教育大学）

1 Web調査の概要

この報告は，特集テーマ「学習者の視点から学校音楽教育を考える」のためにWeb上で実施された調査の結果を整理したものである。

①Web調査実施時期：2015年5月～7月

②回答者数（入力人数）

・合計＝303名（男子51％／女子49％）

・小学生＝72名：全回答者の24％

（4年1名，5年2名，6年69名）

・中学生＝193名：全回答者の64％

（1年52名，2年79名，3年62名）

・高校生＝38名：全回答者の12％

（1年22名，2年0名，3年15名，4年1名）

以下，本調査の結果に加えて『日本音楽教育学会会長諮問プロジェクト調査』¹⁾と，『国立教育政策研究所：小学校学習指導要領実施状況調査』²⁾も参考にしながら考察を進める。

2 分析結果のポイント

本誌エディターによる一次分析を基に，客観性と冷静さを担保するために各執筆者がそれぞれの立場や視点から二次分析を行った。筆者に

よる分析結果のポイントは次のとおりである。

①72％が音楽の授業は楽しいと回答。

②様々なジャンルの音楽や，多彩な活動（鑑賞や器楽，和楽器等）を望んでいる。

③求める教師像は，知識や技能を面白く説明し，楽しく教えてくれる，やさしい先生。

④授業での教科書使用率は小学校で74％だが，中高校では極めて低く，全体では45％。

⑤49％が教科書は興味がある内容と回答。

⑥望む教科書は「知識，技術，歌詞や楽語の意味」の説明が充実したもの。

⑦音楽のテストを必要と回答した者は33％だが，55％が音楽の評価は重要だと回答。

⑧64％が音楽の授業を大切だと回答。

⑨51％が授業の成果は日常生活で役立つと回答。

⑩55％が学校の音楽行事を楽しいと回答。

3 分析結果の概要

3.1 音楽科授業と音楽教師について

3.1.1 質問項目Ⅱ（1）1：「音楽の授業は楽しいですか」

1) 日本音楽教育学会『会長諮問プロジェクト調査報告書—子どもたちと考える教科音楽—』

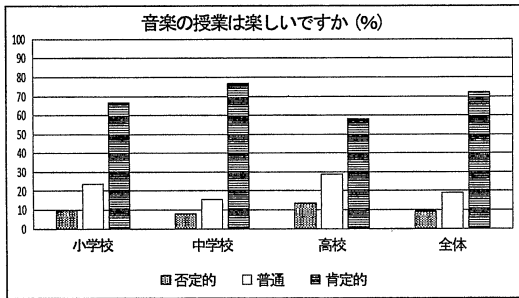
①H27年5～7月実施，H27年10月結果公表。

②15都道府県の小学校30校へ依頼（大学附属関連校10校含む），有効回答者数は2,466名。

2) 国立教育政策研究所『小学校学習指導要領実施状況調査報告書』

①H25年2～3月実施，H27年2月結果公表。

②小学校911校（4.2％）を無作為抽出し，音楽科は6千名以上の6年生を対象として行われた。



「とても楽しい」と「楽しい」を肯定的回答、「楽しくない」と「まったく楽しくない」を否定的回答とし、比較のためにグラフ化した。

- ①小学生：肯定的＝66.7%，どちらでもない＝23.6%，否定的＝9.7%
- ②中学生：肯定的＝76.7%，どちらでもない＝15.5%，否定的＝7.8%
- ③高校生：肯定的＝57.9%，どちらでもない＝28.9%，否定的＝13.2%
- ④全体：肯定的＝71.9%，どちらでもない＝19.1%，否定的＝8.9%

さらに5段階評定について「とても楽しい＝5点」～「全く楽しくない＝1点」として平均を求めたところ、小学生＝3.92，中学生＝4.12，高校生＝3.61，全体＝4.01になった。

＊参考【国立教育政策研究所調査報告書】

「音楽の学習が好きだ」という質問に対して肯定的回答は68.1%。

＊参考【会長諮問プロジェクト調査報告書】

「音楽の学習が好きだ」という質問の5段階評価平均は2.714（5を最高評価に変換）。

＊【所見と考察】

小中学生で肯定的回答が多く、高校生では少ないことから、小中学生は肯定的な意見を記すためにWebへアクセスし、高校生は否定的な立場からアクセスしている可能性もある。

5段階評定平均は4.01（4＝楽しいを上回る）であること、参考に添えた【国教研調査】でも肯定的回答は68.1%だったことから全体の約70%が音楽の授業を楽しんでいると判断できる。ただし【プロジェクト調査】の5段階

評価が2.7（3＝どちらでもないを下回る）だったことから「楽しい」と評価する基準が調査や回答者により大きく異なっていると考えられる。

3.1.2 質問項目Ⅱ（2）1：自由記述「音楽の授業について」

例：こんな授業だったらいいのに、
こんな授業で楽しい

回答からキーワードを抽出して整理した。

- ①歌・合唱：小学生9，中学生25，高校生3
- ②器楽・合奏：小学生12，中学生18，高校生4
- ③鑑賞：小学生3，中学生14，高校生2
- ④ICT：中学生7
- ⑤和楽器・日本音楽：小学生2，中学生3
- ⑥作曲：中学生3
- ⑦読譜・理論：小学生1，中学生2
- ⑧注目すべき回答：「音楽の授業を増やす（中学生）」「みんなで～する／ペアで～する／アドバイスし合う等（小学生1，中学生7）」
- ⑨否定的回答：「僕の学校は歌ばかりで昼休みや放課後まで歌で歌の楽しさを知らない僕には音楽が嫌いになってしまいます。もっとクラスのみんなが歌の楽しさを知ってからみんなで楽しく歌いたいと思います（中学生）」
「ぼくは音楽が大好きです。でも音楽の授業は大嫌いです。特に合唱が嫌いです。美しい声ばかりを求められるからです。美しい声ばかりが歌じゃない，むしろ世間ではそっちが少数派かもしれないというのに地声で歌うと怒られるのです。あと楽譜通りにしろと強制されるのも嫌です。では，なぜぼくは音楽が好きか。それは音楽は芸術だからです。作曲が大好きで自由に歌っています。友達と音楽ユニットを作って自由に歌っています。自分の言いたいことを表現したりできるからです。音楽の授業ってなぜこんななのだろう，と疑問に思う日々なのです（中学生）」

＊【所見と考察】

望む授業で歌唱が最多になることは予想して

いたが、器楽に関する要望も多く、鑑賞も少なくなかった。和楽器や日本音楽と作曲の回答が見られたのは小中高校の先生方の教育活動の成果だと考えられ、ICTは現代的教育課題に沿った傾向であろう。読譜と理論の回答も興味深い。また⑧は今後の教育課題として重要な位置づけにある「学び合いや協働」に関するものを含んでおり、⑨のような「行き過ぎた歌唱指導」や「押さえつけ」に反発する回答もある。

3.1.3 質問項目Ⅱ(2)4：自由記述「音楽の先生について」

例：私の先生はこんな先生で楽しい、
こんな先生だったらいいな

回答からキーワードを抽出して整理した。

- ①「楽しい、面白い、やさしい」に類するもの：
小学生14、中学生40、高校生3
- ②「教えてくれる、説明してくれる、わかりやすい等」：小学生9、中学生13、高校生2
- ③実技がうまい：小学生3、中学生14
- ④その他要望等：「知識を話してほしい（小学生）」「もう少し音楽を聞かせてほしい（小学生1、中学生1）」「鑑賞の授業をしてほしい（中学生）」「色々な楽器を使って授業（小学生1、中学生1）」「弦楽器も聞いてみたい（中学生）」「個別歌唱レッスンをしてほしい（中学生）」「自分の好きな音楽を勉強したい（中学生）」「一人ひとりを分かって授業してくれる先生（中学生）」「音楽の苦手な人のためにわかりやすくしてほしい（中学生）」「みんなのレベルで教えて欲しい、プレッシャーではなく（高校生）」「映画とかいらない（高校生）」

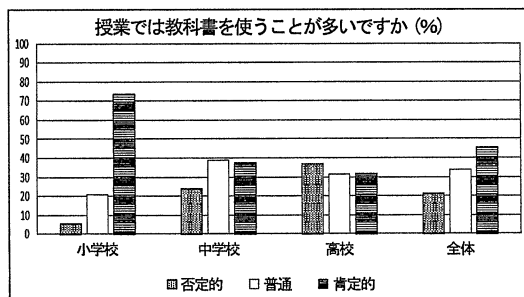
* [所見と考察]

教師の配慮や努力を認める回答が大部分で、要望として書かれた内容も冷静な書きぶりであることが印象的である。望む教師像で最も多いのが「楽しい、面白い、やさしい」になることは予想していたが、教師の実技能力（声楽や伴奏ピアノ）を求める回答よりも「教えてくれる、

説明してくれる、わかりやすい、アドバイスしてくれる」の方が多くことに注目したい。

3.2 音楽科教科書について

3.2.1 質問項目Ⅱ(1)2：「授業では教科書を使うことが多いですか」



「とても使う」と「使う」を肯定的回答、「使わない」と「まったく使わない」を否定的回答とした。

- ①小学生：肯定的＝73.6%，どちらでもない＝20.8%，否定的＝5.6%
- ②中学生：肯定的＝37.3%，どちらでもない＝38.9%，否定的＝23.8%
- ③高校生：肯定的＝31.6%，どちらでもない＝31.6%，否定的＝36.8%
- ④全体：肯定的＝45.2%，どちらでもない＝33.7%，否定的＝21.1%

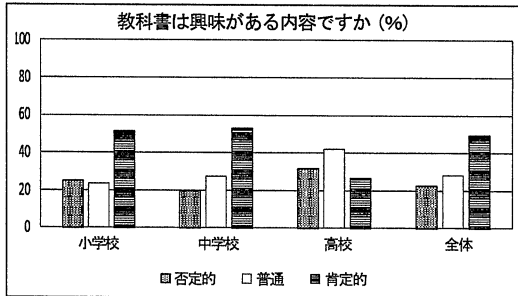
さらに5段階評定について「とても使う＝5点」～「まったく使わない＝1点」として平均を求めたところ、小学生＝4.04、中学生＝3.22、高校生＝2.95、全体＝3.38となった。

* [所見と考察]

小学生で74%もある肯定的回答が中学生で37%、高校生では32%まで減少しており、中学校と高校における教科書離れを如実に語っている。しかし5段階評定平均では小学生4.04、中学生3.22と高校生2.95であることから、子供自身は教科書の使用率を極端に低く感じていないことがわかる。小学生で肯定的回答が多く5段階評定平均も高いのは、音楽専科教員に加えてクラス担任も教科書を活用する努力を重ね

ていることの表れであろう。よってこの教科書不利用問題は、音楽専科教員が担当する中学校と高校において懸案である。

3.2.2 質問項目Ⅱ(1)3:「教科書は興味がある内容ですか」



「とても興味がある」と「興味がある」を肯定的回答、「興味がない」と「まったく興味がない」を否定的回答とした。

- ①小学生：肯定的=51.4%，どちらでもない=23.6%，否定的=25%
- ②中学生：肯定的=52.8%，どちらでもない=27.5%，否定的=19.7%
- ③高校生：肯定的=26.3%，どちらでもない=42.1%，否定的=31.6%
- ④全体：肯定的=49.2%，どちらでもない=28.4%，否定的=22.4%

さらに5段階評定について「とても興味がある=5点」～「まったく興味がない=1点」として平均を求めたところ、小学生=3.42、中学生=3.43、高校生=3、全体=3.37となった。

*参考 [国立教育政策研究所調査報告書]

6年生を指導している教師を対象にした質問紙調査において「児童が興味・関心をもちやすい(共通歌唱教材)」に肯定的な回答は「《ふるさと》=85.5%」「《おぼろ月夜》=56.7%」「《越天楽今様》=28.2%」「《われは海の子》=53.3%」であり、平均は55.9%。また「児童が身に付けやすい」へ肯定的な回答は「《ふるさと》=88.7%」「《おぼろ月夜》=65.2%」「《越天楽今様》=26.9%」「《われは海の子》

=64.3%」であり、平均は61.3%。

* [所見と考察]

音楽科授業における教科書使用率が低かったため子供達の教科書への興味もかなり低くなると予想していたが、高校生(26%)を除いて半数が肯定的回答をしている。5段階評定平均も3.37であり、教師が授業で教科書を使用していなくても子供達は自ら教科書に触れ、内容に目を通していることが分かる。参考に添えた[国教研調査]で教師の意識を尋ねた「歌唱共通教材の児童への定着度、児童の興味関心度」の結果でも、平均で教師の半数以上が「子供が興味を持ちやすい」と答えていることから、子供達は自ら教科書の様々な曲を譜読みし、ネット等を通じて音源を耳にするなど、授業以外でも教科書へ親しんでいることが分かる。

3.2.3 質問項目Ⅱ(2)2:自由記述「教科書について」

例：教科書のこんなところが面白い、
こんな教科書だったら面白い

回答からキーワードを抽出して整理した。

- ①多様なジャンル曲の充実：小学生14、中学生22、高校生2
- ②知識・技術、歌詞や楽語の意味：小学生2、中学生29、高校生1
- ③写真、イラスト、キャラクタ等：小学生6、中学生4
- ④音声やCD付き、紙で鳴る楽器等の付録：小学生2、中学生1
- ⑤タブレットの教科書：中学生1

* [所見と考察]

様々なジャンルの曲や最近の曲、アニメの曲などを求める回答が多い。これは後の3.7.2「音楽についてこう思う、音楽について言いたい」でも同様に、子供達はより新しい曲やより身近な音楽、より幅広い音楽の活動を望んでいる。

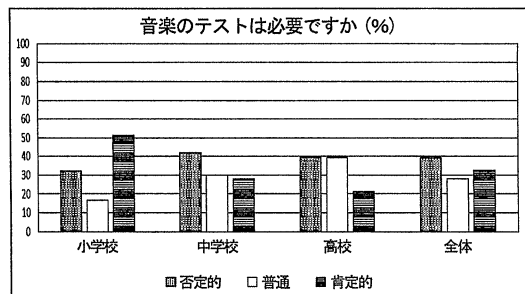
しかし中学生に限ると、最も多いのは「知識(音楽史も含む)」や「発声や奏法も含む技術指

導」「歌詞や楽語の意味」の充実を求めるものである。また現実に筆者の勤務校の留学生や来学者から関心が高いのは、楽譜に加えて楽典や音楽史等がまとめられた音楽科教科書である。

気になる点は、前述した3.1.2④でICTを活用した授業を7名も望んでいながらタブレット教科書を望む回答が1名しかなかったことである。従来の孤立型PCを用いた活動とICTの異なる点は、「同時配信・双方向通信による共有共通理解化を可能にし、思考を伴った試行錯誤の積み重ねの足跡を残せるツール」であると考えている。よって子供達が「ICT＝PC音楽」と狭く捉えて「思考を経ない偶然性に依拠した作曲のツール」と誤認識することのないよう、教材化の際に注意が必要であろう。

3.3 音楽のテストと評価について

3.3.1 質問項目Ⅱ(1)4:「音楽のテストは必要ですか」



「とても必要だと思う」と「必要だと思う」を肯定的回答、「必要ないと思う」と「まったく必要ないと思う」を否定的回答とした。

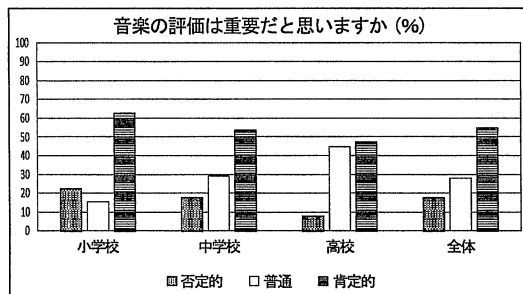
- ①小学生：肯定的＝51.4%，どちらでもない＝16.7%，否定的＝31.9%
 - ②中学生：肯定的＝28.0%，どちらでもない＝30.1%，否定的＝42.0%
 - ③高校生：肯定的＝21.1%，どちらでもない＝39.5%，否定的＝39.5%
 - ④全 体：肯定的＝32.7%，どちらでもない＝28.1%，否定的＝39.3%
- さらに5段階評価について「とても必要だと思

う＝5点」～「まったく必要ないと思う＝1点」として平均を求めたところ、小学生＝3.28，中学生＝2.78，高校生＝2.82，全体＝2.9となった。

* [所見と考察]

小学生で51%ある肯定的回答が中学生は28%，高校生では21%まで減り，5段階評価平均も3.28から2.82まで下がっていることから，校種による肯定的回答の減少の度合いは大きいことが分かる。また否定的回答がアンケート中最多であることも特徴であり，小学生では32%，中学生42%，高校生では39%が「必要ない」を選択している。さらに「どちらでもない」の割合が小学生で17%しかなかったものが中学生は30%，高校生では2倍以上の39%まで増えており，校種が上がるにつれて音楽のテストそのものに対する関心は薄れている可能性を否定できない。

3.3.2 質問項目Ⅱ(1)5:「音楽の評価は重要だと思いますか」



「とても重要と思う」と「重要と思う」を肯定的回答、「重要と思わない」と「まったく重要と思わない」を否定的回答とした。

- ①小学生：肯定的＝62.5%，どちらでもない＝15.3%，否定的＝22.2%
 - ②中学生：肯定的＝53.4%，どちらでもない＝29.0%，否定的＝17.6%
 - ③高校生：肯定的＝47.4%，どちらでもない＝44.7%，否定的＝7.9%
 - ④全 体：肯定的＝54.8%，どちらでもない＝27.7%，否定的＝17.5%
- さらに5段階評価について「とても重要と思

＝5点」～「まったく重要と思わない＝1点」として平均を求めたところ、小学生＝3.68、中学生＝3.55、高校生＝3.47、全体＝3.57となった。

* 【所見と考察】

肯定的回答は小学生63%から高校生47%まで減っているものの、全体としては半数以上が評価は重要だと答えている。5段階評定平均も3～4を維持している。前項の「音楽のテストの必要性」では校種が上がるにつれて肯定的回答が減じてテストの必要性を否定する回答が増加したが、ここで尋ねた「音楽の評価の重要性」は小中高校生のいずれもほぼ半数以上が肯定的に回答している。これらのことから、子供達は音楽の評価の重要性は認めているものの、テストのやり方やその内容に不満を感じていたり改善を望んでいたりとすることが推察される。

3.3.3 質問項目Ⅱ（2）3：自由記述「音楽のテストや評価について」

例：テストはあった方がいい、こんなテストや評価だったらいいのに

回答からキーワードを抽出して整理した。

- ①肯定的回答：小学生18、中学生22、高校生3
- ②否定的回答：小学生5、中学生21、高校生5
- ③望むテスト：「色々な楽器を使えるかのテスト（小学生）」「音楽記号を書きなさいのテスト（中学生）」「記述式の評価（中学生）」「個人を評価（中学生）」「その子自身が頑張っているかを評価（中学生）」「みんなで楽しく学べるテスト（中学生）」「2人でのテスト／10人くらいでのテスト（中学生）」「有名な曲の曲名を当てるテスト（高校生）」
- ④やめてほしいテスト：「人前のテスト（中学生3、高校生1）」「リコーダーのテスト（中学生）」

* 【所見と考察】

肯定的な回答の多くは、評価が自身の知識や技術の習熟度を知るきっかけになることや、今後の学習や練習への動機づけになることを挙げている。一方、否定的な回答の理由としては、

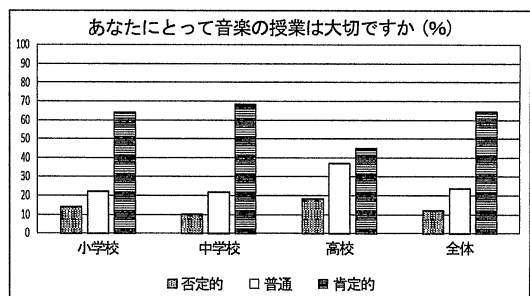
教師の主観で評価されることを拒むもの、音楽の価値観は多様であると主張するもの、音楽そのものの必要性を感じていないもの、音楽は楽しむためにある等を挙げている。文面から類推すると、これらは主に実技テストに対する反発がもたらしているものと思われる。

要望では、知識を問うテストや記述式のものへ変更を求めるもの、個々の成長や達成度を評価することを求めるものがあった。

注目すべき回答として「みんなで楽しく学べるテスト」を挙げておきたい。これは筆者の持論である「評価は結果としての到達度を査定するものではなく、一つの通過点として位置づけ、活動や学習のきっかけや動機づけのツールとして活用すべきである」に沿っており、テストを受けることで子供達の成長が促され達成感や成就感にも結び付くような方法を模索すべきであろう。

3.4 音楽科授業の意義

3.4.1 質問項目Ⅱ（1）6：「あなたにとって音楽の授業は大切ですか」



「とても大切である」と「大切である」を肯定的回答、「大切ではない」と「まったく大切ではない」を否定的回答とした。

- ①小学生：肯定的＝63.9%，どちらでもない＝22.2%，否定的＝13.9%
- ②中学生：肯定的＝68.4%，どちらでもない＝21.8%，否定的＝9.8%
- ③高校生：肯定的＝44.7%，どちらでもない＝36.8%，否定的＝18.4%
- ④全体：肯定的＝64.4%，どちらでもない＝22.2%，否定的＝13.9%

=23.8%, 否定的=11.9%

さらに5段階評価について「とても大切である=5点」～「まったく大切ではない=1点」として平均を求めたところ、小学生=3.82, 中学生=3.93, 高校生=3.39, 全体=3.84となった。

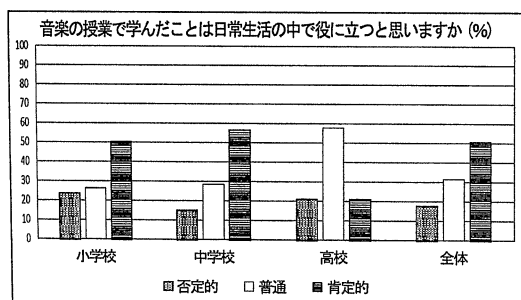
＊参考 [会長諮問プロジェクト調査報告書]

「授業で聞いた曲の中で心に残っている曲はありますか」の肯定的回答は47.9%, 「歌ったり楽器で演奏したりした曲の中で心に残っている曲はありますか」の肯定的回答も51.7%であり, 授業内の音楽活動の印象は低い。

＊ [所見と考察]

小中高校生のいずれも肯定的回答の割合は約65%を占めていることから, 多くの子供が音楽科授業の大切さを認めていることが分かる。しかし5段階評価平均が4を切っている点が気にかかる。参考に添えた [プロジェクト調査] の結果では, 授業で扱った曲の中で心に残っているものが半数しか無いことから, 子供達は音楽科の授業を大切だと感じていながらも, その中で聴いたり演奏したりした曲を覚えていないことになる。これらを鑑みると「音楽科の授業は大切なものではあるが印象に残らない」あるいは「子供達にとって身近なものではない」ことが推察される。大学生等を対象にして過去の思い出を尋ねたアンケートではなく, 子供達へ「今現在の授業のこと」を尋ねているので, この結果は真摯に受け止めなければならない。

3.4.2 質問項目Ⅱ (1) 7:「音楽の授業で学んだことは日常生活の中で役に立つと思いますか」



「とても思う」と「思う」を肯定的回答, 「思わない」と「まったく思わない」を否定的回答とした。

①小学生: 肯定的=50%, どちらでもない=26.4%, 否定的=23.6%

②中学生: 肯定的=56.5%, どちらでもない=28.5%, 否定的=15.0%

③高校生: 肯定的=21.1%, どちらでもない=57.9%, 否定的=21.1%

④全体: 肯定的=50.5%, どちらでもない=31.7%, 否定的=17.8%

さらに5段階評価について「とても思う=5点」～「まったく思わない=1点」として平均を求めたところ, 小学生=3.36, 中学生=3.62, 高校生=3, 全体=3.48となった。

＊参考 [国立教育政策研究所調査報告書]

「音楽の学習をすればふだんの生活や社会に出て役立つ」という質問に対して肯定的回答は47.7%だが, 「音楽の学習をすると心が豊かになると思いませんか」は78.3%, 「音楽の学習をすると明るく楽しい生活ができるようになると思いませんか」も72.8%を占める。

＊参考 [会長諮問プロジェクト調査報告書]

9教科から3教科を選ぶ質問において「自分の心を豊かにするのに役立つ教科」の選択率は46%, 「生活を明るく楽しく過ごすために役立つ教科」の選択率も42.5%で半数に満たない。

＊ [所見と考察]

全体としては51%が肯定的に回答しているが, 思春期にあたる中学校では57%だったものが高校生では半分以下の21%に激減する。しかし5段階評価平均が高校生でも3以上を維持していることから否定的回答が極端に増えた訳ではない。そこで「どちらでもない」の割合を見たところ, 小中学生で27%前後だったものが高校生では2倍以上の58%まで増えていた。このことから, 思春期とその前段階にある小中学生では音楽の有用性を「心の支えや癒し, 自己実現」等として捉えていたが, 卒業後の進路が気

にかかる高校生ではより現実的な視点から捉えるようになり、その結果「可もなく不可もなく」の回答が増えた可能性を否定できない。つまり小中学生と高校生では「役に立つ」の捉え方と価値観が異なっていたものと思われる。

参考に添えた「国教研調査」でも「生活や社会に出て役立つ」の肯定的回答は47.7%に止まり、「プロジェクト研究」の「心を豊かにするのに役立つ」が46%、「生活を明るく楽しく過ごすために役立つ」も42.5%に止まっている。しかし「国教研調査」の「心が豊かになる」は78.3%、「明るく楽しい生活ができるようになる」も72.8%が肯定的に回答していることから、「役に立つ」の捉え方と価値観が、回答者や調査により異なっていることが推察される。

3.4.3 質問項目Ⅱ（2）5：自由記述「音楽の授業とあなたの生活について」

例：こんなことで大切だと思う、こんなところで関係している

回答からキーワードを抽出して整理した。

- ①「自己認識・自己実現・自己解放」等のアイデンティティや癒しに関わるもの：小学生4, 中学生16, 高校生1
- ②有用性（～に役立つ）に関わるもの：小学生5, 中学生10, 高校生1
- ③思考や創造力：小学生1, 中学生5, 高校生1
- ④感性や情操：小学生2, 中学生3, 高校生1
- ⑤コミュニケーションに関わるもの：小学生1, 中学生3, 高校生1
- ⑥楽しい・元気になる：小学生2, 中学生3
- ⑦否定的回答：「必要ない（小学生3, 高校生1）」
「特にない（小学生）」「かかわっていない（中学生）」

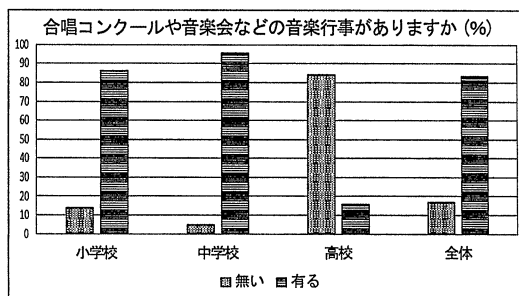
* [所見]

前項で肯定的な回答が少なかったにもかかわらず、「③思考や創造力」に関する回答があったことに注目したい。反面「生活の中に必要ない」と否定的に回答した者が小学生と高校生に

いることを重く受け止めたい。

3.5 学校の音楽行事と部活動について

3.5.1 質問項目Ⅲ－1：「あなたの学校は合唱コンクールや音楽会などの音楽行事がありますか」



①小学生：有る＝86.1%，無い＝13.9%

②中学生：有る＝95.3%，無い＝4.7%

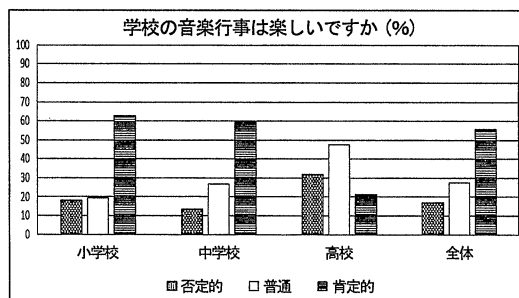
③高校生：有る＝15.8%，無い＝84.2%

④全 体：有る＝83.2%，無い＝16.8%

* [所見]

小中学校は多くの学校で音楽行事が行われており、高校では極めて少ないという結果になっている。しかし現実には文化祭を行っている高校も少なくないことから、回答者自らが参加する音楽行事に限っているものと思われる。

3.5.2 質問項目Ⅲ－2：「学校の音楽行事は楽しいですか」



「とても楽しい」と「楽しい」を肯定的回答、「楽しくない」と「まったく楽しくない」を否定的回答とした。

①小学生：肯定的＝62.5%，どちらでもない

= 19.4%, 否定的 = 18.1%

②中学生：肯定的 = 59.6%, どちらでもない = 26.9%, 否定的 = 13.5%

③高校生：肯定的 = 21.1%, どちらでもない = 47.4%, 否定的 = 31.6%

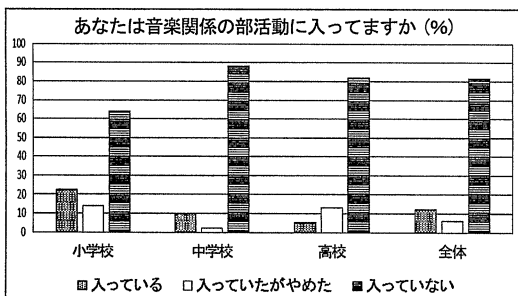
④全体：肯定的 = 55.4%, どちらでもない = 27.7%, 否定的 = 16.8%

さらに5段階評定について「とても楽しい = 5点」～「まったく楽しくない = 1点」として平均を求めたところ、小学生 = 3.72, 中学生 = 3.77, 高校生 = 2.82, 全体 = 3.64となった。

* [所見]

小学生63%, 中学生60%が肯定的に回答しているが、高校生では1/3以下の21%まで激減する。高校生では音楽活動に対する価値観の相違が顕著になり、音楽ジャンルの嗜好も多様になることから、一律の行事参加に対して個人の意思や意見がより明確になるためであろう。

3.5.3 質問項目Ⅲ-3:「あなたは音楽関係の部活動に入っていますか」



①小学生：入っている = 22.2%, 入っていたがやめた = 13.9%, 入っていない = 63.9%

②中学生：入っている = 9.8%, 入っていたがやめた = 2.1%, 入っていない = 88.1%

③高校生：入っている = 5.3%, 入っていたがやめた = 13.2%, 入っていない = 81.6%

④全体：入っている = 12.2%, 入っていたがやめた = 6.3%, 入っていない = 81.5%

* [所見]

自らWeb調査へアクセスしているので音楽

の部活に所属し積極的に音楽活動へ参加している回答者が多いと予想していたが、音楽の部活動を経験したことの無い者が多くを占めていた。

3.5.4 質問項目Ⅲ-4:自由記述「部活動に入ったきっかけ、理由があれば教えてください」

回答からキーワードを抽出して整理した。

①面白そう、好き、興味がある、格好いい：小学生4, 中学生10, 高校生1

②親族に勧められた：小学生3, 中学生1, 高校生1

③やってみたい：小学生4

④小学校の先生に勧められた：中学生1

* [所見]

小中高高校生とも自らの興味関心から入部した者が多いが、小学生の場合は「他者から勧められた」ことを理由に挙げる者も多い。

3.5.5 質問項目Ⅲ-5:自由記述「やめた理由、入っていない理由があれば教えてください」

回答からキーワードを抽出して整理した。

①興味が無い、面白くない、苦手、嫌い：小学生21, 中学生23, 高校生2

②時間が無い：小学生11, 中学生9, 高校生9

③音楽系の部活が無い：小学生5, 中学生19

④練習がハード：中学生6

⑤人間関係が難しい：中学生2

⑥注目すべき回答：「やる意味が無い (小学生)」

「入る必要ない時間のむだ (小学生)」「音楽の授業で十分 (中学生)」「学校の音楽に楽しさを感じない (中学生)」

* [所見]

小中学生では興味関心を失って退部した者が多いが、高校生は「時間が無い」を挙げる者も多かった。注目すべき回答は「練習がハード」や「人間関係」であり、これらは音楽行事にも当てはまるものであろう。さらに⑥の否定的な

回答は、部活動へ参加することで得られる成果や意義を教師が子供達へ適切に説明し切れていないことの証左であり、過度に音楽演奏の良否に拘る指導には慎重になるべきである。

3.5.6 質問項目Ⅲ－6：自由記述「音楽の行事や部活動について、あなたの意見や考えを教えてください」

回答からキーワードを抽出して整理した。

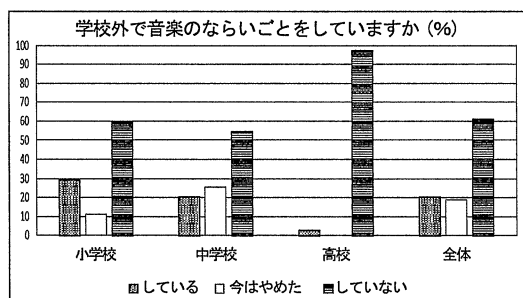
- ①演奏の場や発表機会を求める回答が多数。
- ②「交流、絆」等のコミュニケーションに関する回答：中学生5，高校生2
- ③「学び、成果、成長、達成感」等のアイデンティティに関する回答：小学生1，中学生4
- ④「本気でやると楽しい」等の回答：中学生3
- ⑤否定的な回答：「いらない（小学生）」「音楽行事で休み時間を削るのはおかしい（中学生）」

* [所見と考察]

「行事によって多くの音楽に触れ合える」「成果を発表することが達成感や成長へ繋がる」等の回答や学校行事や音楽関係の部活の充実を求めるものが印象的であった。かつて音楽行事を否定する意見もあったが、音楽そのものが他者へ伝わることを存立条件の一つとしているため、演奏に対する自身の努力が聴取者へ認められ音楽的な評価を受けることに大きな喜びを感じ、それを推進力としてより深く音楽へ向かおうとする動機づけにしている子供は少なくない。

3.6 学校外でのならいごとについて

3.6.1 質問項目Ⅳ－1：「学科外で音楽のならいごとをしていますか」



- ①小学生：している＝29.1%，していたがやめた＝11.1%，していない＝59.7
- ②中学生：している＝20.2%，していたがやめた＝25.4%，していない＝54.4%
- ③高校生：している＝2.6%，していたがやめた＝0%，していない＝97.4%
- ④全体：している＝20.1%，していたがやめた＝18.8%，していない＝61.1%

* [所見]

自らWeb調査へアクセスしているので経験者は多いと予想していたが、前述した3.5.3「音楽の部活経験者」と同様に、音楽のならいごとを経験したことの無い者が多かった。

3.6.2 質問項目Ⅳ－2：自由記述「何のならいごとか教えてください」（複数回答可能）

「①ならいごとをしている」と「②していたが今はやめている」に分けて尋ねている。

- ①学校外で音楽のならいごとをしている
 - ・小学生：ピアノ20，ヴァイオリン1
 - ・中学生：ピアノ21，電子オルガン2，ダンス1，バレエ1，ウクレレ1
 - ・高校生：ヴァイオリン1
- ②(していたが) 今はやめている
 - ・小学生：ピアノ6，鼓笛隊1
 - ・中学生：ピアノ35，電子オルガン1，ギター1，和太鼓1，箏1，ミュージカル1

* [所見と考察]

「今はやめている」の鼓笛隊，和太鼓，ミュージカルは，いずれも一人ではやりにくいものであることから，小学校卒業に伴い「活動の場（クラブ，チーム）」を失った可能性がある。

3.6.3 質問項目Ⅳ－3：自由記述「してみたい音楽のならいごとがあれば教えてください」

ならいごとと経験の無い回答者を対象に「してみたい音楽のならいごと」を尋ねている。

①小学生：無27，ピアノ7，ギター2，パイプオルガン2，エレキギター1，歌1，祇園ばやし1，リコーダー1

②中学生：無71，ピアノ14，ギター5，歌5，キーボード2，ヴァイオリン2，ドラム1

③高校生：無19，ピアノ7，ギター2，ドラム2

* [所見]

自らWeb調査へアクセスしているので何某かの音楽のならないごとを望む子供が多いと予想していたが、「(希望は)無い」という回答者が小学生38%，中学生37%，高校生50%にも及ぶことに注目したい。

3.6.4 質問項目Ⅳ-4：自由記述「音楽のならないごとについてあなたの意見や考えを教えてください」

ならないごと経験者①と未経験者②に分けて、回答文からキーワードを抽出して整理した。

①-1 経験者の肯定的な回答：大部分が「楽しい、面白い」に類する回答。それ以外は次のとおり。「やってみることで行きたくなる(小学生)」「人との交流、関係を深められる(中学生)」「達成感(中学生)」「授業がスムーズに進む(中学生)」「自信がつく(中学生)」「将来のためにいい(中学生)」

①-2 経験者で否定的な回答：「一人で練習するのが嫌でやめた(中学生)」

②-1 未経験者の肯定的な回答：「音感がよくなる(小学生)」「歴史に関係がある(小学生)」「ピアノが弾けたりするのはよい(中学生)」「習っておきたかった(中学生)」「経験になる(中学生)」「うまくなるのはいい(高校生)」「楽しさを知るために必要(高校生)」

②-2 未経験者で否定的な回答：「そんなものいると思わない(小学生)」「趣味だから時間に余裕がないとできない(中学生)」

* [所見]

自由記述にわざわざ記しているだけあって肯定的な回答で占められている。しかし音楽のな

らいごと経験者の回答に「音楽の知識や技能の習得」に関する回答が少なく、逆に未経験者の方に見られたことが気にかかる。また経験者の否定的な回答に「一人で練習するのが嫌」という回答があり、未経験者の否定的な回答にも厳しいものがあつたことに注目している。

3.7 音楽とのかかわりについて

3.7.1 質問項目Ⅴ-1：自由記述「あなたが好きな歌や、好きな音楽、演奏してみたい曲や演奏してみたい楽器」

回答からキーワードを抽出して整理した。

①管楽器：小学生7，中学生5，高校生2

②ギター：小学生3，中学生9，高校生1

③鍵盤楽器：小学生0，中学生8，高校生4

④打楽器・ドラム：小学3，中学4，高校3

⑤弦楽器：小学生1，中学生6，高校生2

⑥ボカロ：小学生1，中学生4，高校生0

⑦三味線：小学1，琴：中学1，太鼓：中学1

* [所見]

予想通り管打楽器とギターの希望者が多かった。しかし和楽器の希望者とボーカロイドの希望者が小中学生に在る点にも注目したい。

3.7.2 質問項目Ⅴ-2：自由記述「音楽についてこう思う、音楽について言いたいことがあれば書いてください。学校の音楽でも学校外の音楽のことでも構いません」

回答からキーワードを抽出して整理した。

①「好き、楽しい、素晴らしい」等の肯定的な回答：小学生9，中学生15

②「支え、癒し、幸せ」等の心情面の回答：小学生4，中学生13，高校生3

③「～できるようにになりたい」等の知識や技術に関する回答：小学生2(読譜、音感)，中学生3(音楽史、時代背景や作曲者、声が良くなる)，高校生1(ピアノ)

④「もっと～したい」等の意欲や態度に関する

回答：小学生1（練習する）、中学生2（意欲的に取り組む／もっと頑張る）、高校生1（合唱コンクールをして実行委員を担当したい）

- ⑤取り扱ってほしい活動：器楽や合奏（中学生3）、JPOP／邦楽／ヒップホップ／アニメソング等の親しみやすい曲（中学生5）、多くの人に音楽を好きになってほしい（高校生）
- ⑥否定的な回答：「難しい（小学生）」「時間のむだ（小学生）」「合唱は好きではない（中学生）」「音楽の楽しさを教えてから技術面を（中学生）」「音楽は楽しいものです。しかし音楽が嫌いな人がたくさんいます。嫌いなら、やらなきゃいいんです。楽しいと思うなら徹底的にやるべきです。生きるためには、音楽は絶対必要ではありません。しかし音楽の授業を受けることが義務付けられている。ぼくは学校なんかには音楽が嫌いな人を作って欲しくないんです。音楽教育学会さん、よろしくお願いします。音楽は耐えるものではない。人間の娯楽なのですから（中学生）」「鑑賞は時間をかけて（高校生）」「面白くない（高校生）」

* [所見]

これまでの分析結果をほぼ反映した形である。

- ③と④に積極的に意欲的な回答がある反面、⑥の否定的な回答が厳しいことに注目している。

4 おわりに

今回のWeb調査の分析を通じて、子供達にとって音楽とは「自己理解や自己実現等のアイデンティティに関わるツール」であり、「自己表現や他者理解、洞察力等のコミュニケーションに関わるツール」であると感じた。歌詞の言葉上の意味だけを表面的に捉えるのではなく、心の中で感じる思いや感情を歌詞や音楽に置き換えて表現したり、口に出して表現できない自意識を音や歌詞へ投影して伝えようとしたり、

逆に他者の感情や意識を音楽表現から洞察しようとする。そこでは「抽象の具体への転換」に必要なシミュレーションの力（仮定から結果を予想する類推や想像力）とインナー・バーチャルの力（自己の中で仮想現実を構築する力）が求められ、さらに言葉から読み取ったイメージを心情的イメージへ転換する力、そしてそれを音や音楽に乗せて再表現する力が必要になる。集団でこれらを経験できる学校内音楽活動では、「コミュニケーション、コーディネーション（調整）、マネジメント（計画立案、段取り等）」の能力が求められる。つまり集団活動が可能な学校内音楽活動だからこそ身に付けることのできるこれらの能力、つまり音楽の分野で「アンサンブル力」と表されるこれらへ結び付いていく能力を身に付けることを、子供達は音楽の知識や技能の獲得と同じくらい望んでいると思われる。しかし私見では、これらの活動と「冷静かつ客観的な音や音楽による活動」とのバランスを大切に指導を望んでいる。よって学校教育の一環として行われる学校内音楽活動が子供達からの期待に応えるためにも「音楽を通じて伝える・感じる・共感する活動」「音楽を通じて自己実現・達成・成就を体験する活動」「音楽に関わった他者理解・自己理解の活動や、説得力・説明力・肯定的妥協の活動」「音楽に対する思考判断や理性的判断の活動」を担保し、それらの獲得を可能とする存在意義を学校内外へアピールし得る活動や授業の模索を期待したい。

また、回答に「（音楽）必要ない」「（音楽の部活）やる意味が無い／時間のむだ」「（音楽のならいごと）そんなものいると思わない／趣味だから」「（音楽について）時間のむだ／娯楽」があるのは、音楽を学ぶ意義や音楽活動の成果等を子供へ理解させることができていない証であると感じた。これも重く受け止めたい。